

学園だより

№.6
1974
3月31日発行
財団法人
中国四国酪農大学校



ごあいさつ

副校長 永井 仁

卒業生の諸君、お元気でご活躍のことと存じます。私は、昨年四月の異動で着任しましたものですが、もう一カ年を経過し、九期と十期生の二つの入学式を済ませ、今更ごあいさつでもないでしょうが、「学園だより」では初めてですので一応こう申し上げる次第です。

先輩の名を恥ずかしめないよう頑張りたいと考えております。

反面ものたりなく感じる点は、創立以来、十余年を経過しているため、教育内容および施設が現在にマッチしない面が見受けられることと、第二は同窓会の組織が出来ていないこととあります。第一の教育内容および施設の改善につきましては、五カ年計画を樹て中国四国農政局の格別なるご後援のもとに構成各県のご理解、特に岡山県の物心両面に亘る特別のご援助、地方競馬全国協会のバックアップを得まして、既にその一端に着手しており、計画完成の暁には内容的に面目を一新すると思っておりますので、お暇を作られてご来校ください。第二の同窓会組織につきましても諸君が力を出して戴かねばなりません。何処へ行っても素晴らしい酪農家があると思って聞いてみると殆んどが我が校の卒業生で、私共も肩身を広く感じます。これが縦横の繋りを持ったならば、酪農の実力者ばかりの集りで非常に強くなり構成県内はもとより、将来日本の酪農をリードするよう

な組織になるだろうことは誰しも疑うものはないと思います。昭和四十九年中には是非各県毎の組織を作って戴き、更にその連合会も作りたいたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。

昨年四月、花田校長、浅羽次長、森場長、金田技師等の大ベテランに代って私共が着任いたしました。校長は岡山県農林部長の金島部長（四十九年四月一日からは田淵部長）が兼任しておられ、本務が多忙で不在がちですので、私共が不慣れではありますが、一生懸命頑張っておりますのでよろしくご協力の程お願い申し上げます。

今は激動の真只中です。併しながらこれに流されてはならないと思います。しっかりした信念と我々の仕事の使命を良く認識して、時代を先取して共に頑張ります。ご健康とご来校をお待ちしております。

着任して嬉しかったことの第一は、卒業生の諸君が各地、各方面で大活躍しておられ、特に自営の諸君がその地域のリーダーとして立派にやっておられることでした。第二は、在校生の諸君が明日の酪農経営者を目指して真剣に取り組んでいる姿で、これらは先輩諸先生方のご労苦の賜と深く感じ、

将来日本の酪農をリードするよう

目次

- ごあいさつ.....永井 仁.....1
- 牧場の近況
- 第一牧場.....道繁孝一.....2~3
- 第二牧場.....広友元一.....4
- 海外だより.....井上和彦.....6
- 大学日記.....教務課.....7
- 第八期生卒業生名簿.....8



第一牧場

昨年、の蒜山地方は異常早魃で、日焼草地に渴水、牛は日陰林に直行し、日中の放牧風景は見られない高原の夏でした。

冬は蒜山らしい豪雪に見舞われ、十一月中旬から三月上旬まで全くの銀世界でした。月末になってようやく融けはじめました。ポプラ並木の梢にウグイスやカッコウ鳥の鳴き声が聞かれるのも間近いと場員(道繁、奥以上牧場一年生、名越)楽しみにしています。

◆牛舎と搾乳施設の改造

開校以来の懐しい実習施設、フリーバンとミルクパーラーの改造を夏から始め、資材不足、物価高騰の最中ようやく十二月末に完成しました。表1のように三十四頭繋養の対頭式ストールバンとなり、パイプラインミルクカー、自然流下式糞尿溝を取り入れました。

ミルクパーラーは牛乳処理室に変わり、バルククーラー、自動洗滌機を設置しています。

◆改造のメリット

衛生上の問題が改善の方向



表1 牛舎及び牛乳処理施設改造様式

名称	構造と機種
自然流下式糞尿溝	溝の寸法、深さ1,300mm、幅800mm、尿槽64㎡、鉄製スノコ、鉄丸棒φ12mm、芯～芯の間隔40mm
対頭式ストール	34頭クサリ～ロープ繋ぎ、牛床の寸法、幅1,350mm、長さ1,350mm～1,450mm、中央通路2,300mm 牛床コンクリ内断熱材埋込(飼槽幅700mm、深さ10mm、硬質塩ビ板使用)
搾乳、牛乳処理施設	アルファーラバル社製 パイプラインミルクカーカウセード方式、バルククーラー直膨式 1,000ℓ、自動洗滌機

表2 ホルスタイン生年別構成

(49年2月末調)

年次	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	計
頭数	13	3	6	5	3	3	3	2	1	11	1	51
比率	25.4	5.9	11.8	9.8	5.9	5.9	5.9	3.9	2.0	21.5	2.0	100.0

表3 ホルスタイン産歴別構成

産次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
頭数	7	5	4	1	5	2	6	3	1		34
比率	20.7	14.7	11.7	2.9	14.7	5.9	17.7	8.8	2.9		100.0

表4 若齢肥育牛出荷販売成績

No.	生時体重 Kg	出荷日令 日	出荷前重 Kg	D G Kg	枝肉重量 (水引3%) Kg	枝肉単価 円	販売代金 (販売経費引) 円	備考
1	52	468	620	1,213	334	1,060	354,697	48.7.18 岡山食肉卸市場出荷
2	59	370	607	1,481	335	1,131	381,046	48.4.13 全上
3	44	496	580	1,081	319	1,130	360,807	48.8.28 全上
4	53	429	590	1,251	333	1,081	359,480	48.7.18 全上
5	48	467	575	1,128			390,000	48.8.31 生体、ホクラク販売
6	54	422	608	1,312			393,790	48.8.28 岡山食肉卸市場出荷
7	49	410	572	1,239	348	1,130	390,000	48.8.31 生体、ホクラク販売
8	57	408	450	0,963			270,000	48.8.31 全上(羽交肩肩跛行)
9	51	505	625	1,136			410,000	48.12.10 生体、ホクラク販売
10	50	422	605	1,315			410,000	48.12.10 全上
平均		439	583	1,208			371,982	

牧場の

に一步一步進み、牛の個体、牛乳、環境等清潔になり乳房炎も減少しています。

。管理面で毎日の敷料および糞尿の搬出が殆んど不要となり、搾乳時間が大幅に短縮され、牛乳処理が簡略となり極めて省力化されています。

。糞尿の土地還元地方による自給飼料増産を図って、パドック内に六十四立方メートルの基幹尿槽を設け、チョッパーポンプで草地内六カ所の既設尿槽に送尿し、バキュームカーで散布するのですが、糞尿との戦い(?)今春からが本番で、春風胎蕩ならぬ糞臭芬芳、悪戦苦闘することがデメリットでしょうか。

自然流下式糞尿溝を設置する上で特に留意すべき点ですが、(イ)地下水の高い所は糞尿溝、尿槽の構築が大変困難です。(ロ)糞尿を散布する圃場が近くにあり、運搬散布が容易であることを必要とします。(ハ)糞尿量は、一頭一日約四〇㍑、年間一五㍑程度です。(ニ)糞尿散布に使用する性能の良い機械を常備する。(ヘ)糞尿の散布時には

かなり強烈な悪臭があるので、周囲の環境を充分配慮する。(ホ)積雪地帯では冬期間圃場に糞尿の運搬散布が困難であり、貯尿槽の規模を決めるには越冬期間の長短、水洗による水量、利用時期、方法等充分に考慮する必要があります。毎日が自由なフリーパンから、不自然な飼養管理環境に急変し、牛達は馴れるまではストレスが多く、当初は乳頭の踏傷から乳房炎の発生と、当分心配の多いことでした。

自然流下式糞尿溝は比較的寒冷な北欧で開発され、近年わが国で好評を得て普及しているのですが、日が浅く今後検討を必要とする事項も多いと思われれます。糞尿の利用方法、牧草、飼料作物中の硝酸体窒素の問題、年中舎飼いでも鉄製のスノコの上で寝起きし、高泌乳牛の場合、はたして長期間健康に管理できるであろうかという心配があります。今後の経過をより詳細に観察して行き判断することが必要と思えます。

◆ホルスタインの飼養状況

最近の飼養規模について、年齢別構成を表2に、産歴別構成を表3に記載しました。

経産牛三十四頭の平均年齢は七年ですが、十歳以上の老牛が三十五%という状況から大幅な後継牛の育成を進めています。六カ月以上の育成牛と乾乳牛も昨年秋から

第二牧場へ移動せず飼育しており、牛舎は満ばいです。

◆乳用雄牛若齢肥育出荷成績

四十七年産ホルスタイン雄子牛一〇頭を全酪方式によって若齢肥育し、昨年十二月末までに出荷販売しました。出荷目標を十六カ月(五五〇Kg)に対し、表4に記載

のような好成績で幸い肉市況の高騰に当って有利に販売できました。現在四十八年度産を一〇頭肥育中ですが、騰落した肉市況の回復(並枝肉、Kg九〇〇円以上)を期待しています。

◆流行異常産の発生

四十八年度の異常産の発生は八

月から一月にかけて、早流死産の異形犢、一〇頭と多発しました。発生率(三一%)と四十七年度の(一九%)を上廻り、牧場経営に大きな打撃を受けました。原因については既に発表のように牛の伝染性下痢症ウイルス(BVD)説が重視され生ワクチンの実用化に成功しています。当場では一昨年に続いて昨年と二年連続して二頭の異常産牛(八カ月流死産と異形犢)の発生を経験しており、原因に疑問を感じておりますが、早急に対応策の確立されることを期待しています。

以上西茅部の近況を記しましたが、この一年間の牧場経営は輸入飼料の高騰に始まり、おりからのスタグレーションで諸資材の不足と値上がりに加え異常産の多発等、経営見通しもたて難い暗い状態でしたが、関係者のご理解と協力を得て牛舎改造による個体管理の徹底、糞尿の草地還元増強策等経営の合理化を一步進めることが出来、春の訪れに場員一同明るい望みを抱いて頑張っています。卒業生皆さんのご健闘を祈ります。(第一牧場長 道繁記)



第二牧場

蒜山はここ二年ほど雪が少なく、牧場にとっては好都合でしたが、四十八年度は十一月中旬頃から積雪をみ、十二月には七年振りの大雪で、牧場の作業も除雪に明け暮れました。しかし、道路は昔と違って幅も広く、積雪があれば早朝よりグレーダーにより除雪されるので、食前実習の学生輸送は助かりました。

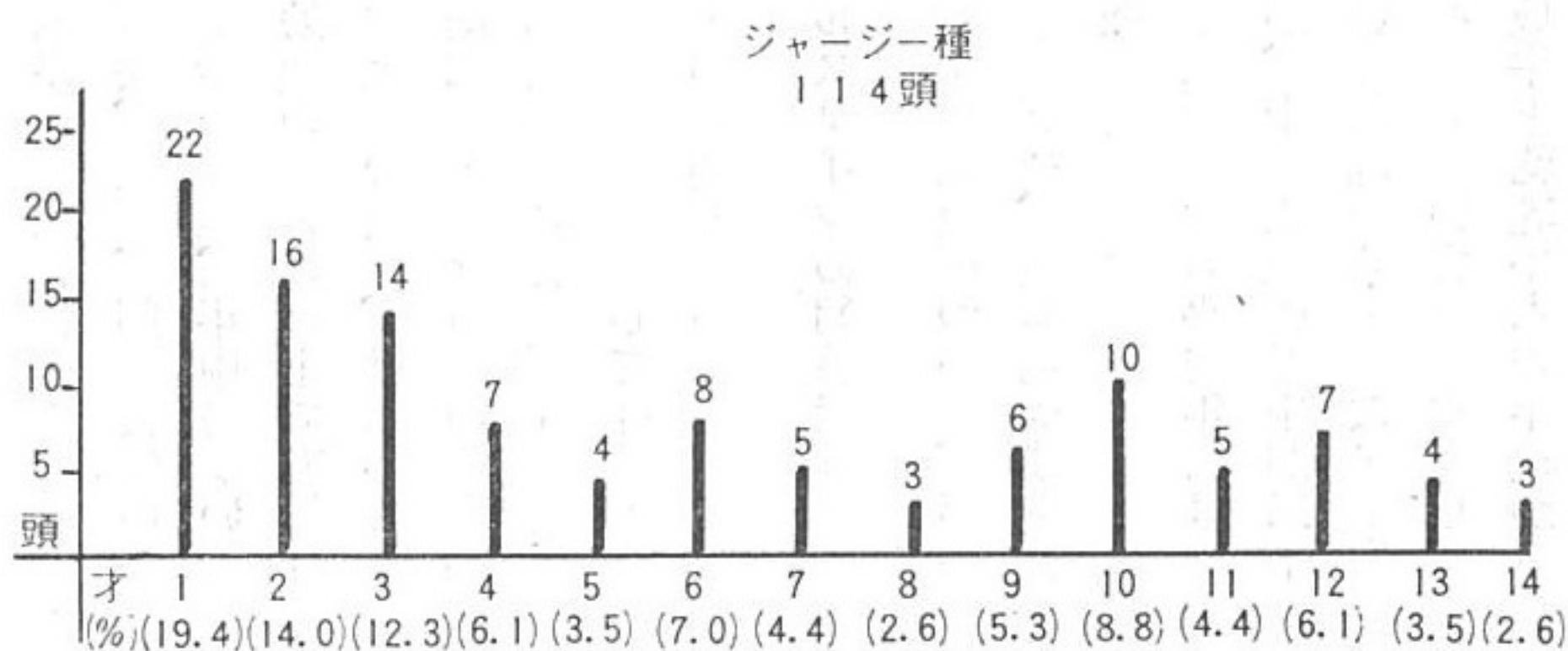
さて、昨年の飼料不足、それに石油危機と飼料、資材の昂騰で牧場も大変な事態に直面しております。

しかしこの際、ジャージー酪農を見直す好機ではないかと思うのです。

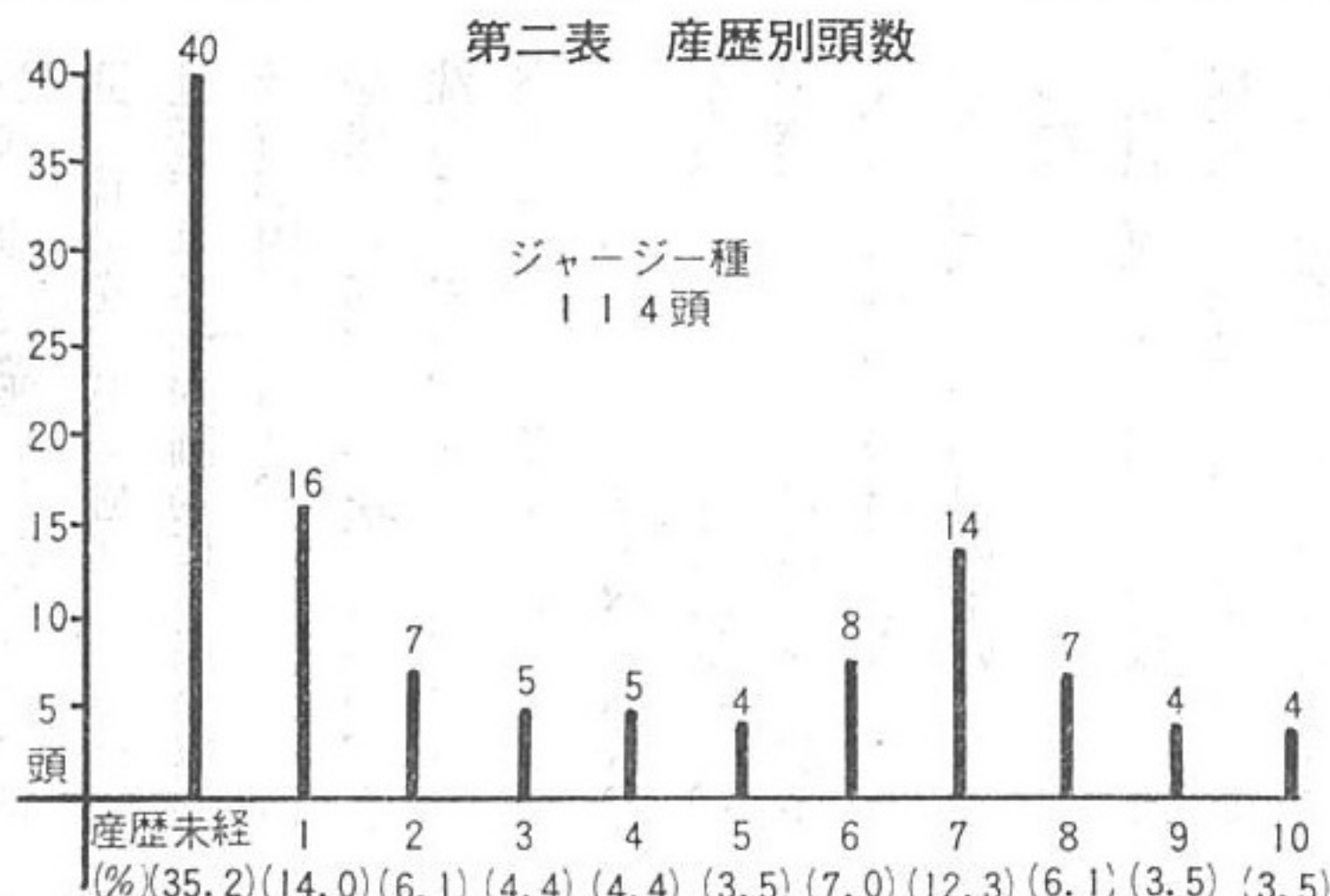
飼料基盤に糞尿還元を行ない地力を養い肥料費の節約、草の生産増大、そしてジャージー牛の特性を生かした草地酪農の確立に努力しなければなりません。

そのため四十九年度は牛舎改造糞尿処理施設の整備を計画いたしております。四十八年度は学生の早出当番ができ、職員とともに搾乳哺育を行なっています。以前は職員一名で八頭複列ミルキングパーラーで搾乳していましたが、一人では空搾りになり泌乳生理に悪かった。この点が解消されました。それから乳質改善、集送乳合理化の一環としてバルククーラー

第一表 年令別頭数



第二表 産歴別頭数



10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
20	19	19	15	10						
15	13	15	10	8						
9.24 ~ 9.26 (3日)	10. 3 ~ 10. 4 (2日)	10.10 ~ 10.12 (3日)	10.26 ~ 10.27 (2日)	全放牧						
7	2	5	14							
24	24	8	8							
60	60	60	60							
14 (240)	12 (200)	14 (160)	15 (180)	13 (160)	13 (160)	11 (180)	8 (120)			
8. 2 ~ 8. 3 (2日)	8.11 ~ 8.12 (2日)	8.24 ~ 8.25 (2日)	9. 2 ~ 9. 3 (2日)	9.13 ~ 9.14 (2日)	9.25 ~ 9.26 (2日)	10.6 (1日)	10.17 ~ 10.18 (2日)	10.27~ 全放牧		
9	7	11	11	9	10	9	11			
24	24	24	24	24	24	24	24			
48	48	48	48	48	48	48	48			
7	7	11	10	7	7	14	13	14	15	
5	5	9	8	5	6	10	10	10	10	
6.24 (1日)	7. 1 (1日)	7.11 ~ 7.12 (2日)	7.19 ~ 7.20 (2日)	8. 4 (1日)	8.14 (1日)	8.30 ~ 9. 1 (2日)	9.11 ~ 9.12 (2日)	9.30 ~ 10. 1 (2日)	10.19 ~ 10.20 (2日)	10.30~全放牧
7	6	10	7	13	10	15	10	17	18	
24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	
52	57	57	57	48	48	48	50	50	53	

3. 45年度は11月5日より30日まで、46年度は11月7日より30日まで、47年度は10月27日より11月26日まで、48年度は10月30日より11月18日まで全牧区に放牧した。



を設置しました。細菌数は著しく減少し効果を挙げています。次に第二牧場の飼育規模を表明お知らせいたします。次表以外に牝仔牛約二十頭育成して居ります。

おりますので参考までに報告します。以上で第二牧場の近況を報告して失礼いたします。同窓の皆様一層のご活躍をお祈りいたします。

第 2 牧場草地利用状況

区分		放牧回数								
		1	2	3	4	5	6	7	8	9
45 年	放牧日の草高	オ 25cm ペ 20cm	65 57	45 51	46 31	28 25	35 27	33 23	25 20	
	放牧日数	4.30~5.4 (5日)	5.30~6.4 (5日)	6.27~6.30 (4日)	7.19~7.23 (4日)	8.10~8.13 (4日)	8.26~8.27 (2日)	9.10~9.12 (3日)	10.11~10.14 (4日)	全放牧
	休牧日数	26日	23	20	18	32	14	29	21	
	放牧時間	6時間	24	24	24	24	24	24	24	
	放牧頭数	45頭	45	40	40	46	46	58	58	
46 年	放牧日の草高	オ 23cm ペ 18cm	25 20	27 22	25 19	27 20	24 24	25 17	27 21	25 17
	放牧日数	4.19~4.22 (4日)	5.10~5.13 (4日)	5.30~6.3 (4日)	6.24~6.27 (4日)	7.7~7.11 (5日)	7.24~7.25 (2日)	8.7~8.11 (5日)	8.24~8.25 (2日)	9.4~9.7 (4日)
	休牧日数	18日	17	14	10	12	12	12	10	17
	放牧時間	7時間	24	24	24	24	24	24	24	24
	放牧頭数	49頭	51	51	41	41	51	51	60	60
47 年	放牧日の草高	オ19cm ペ17cm (400g)	15 12 (380)	22 19 (460)	19 18 (400)	20 14 (500)	19 15 (400)	17 14 (360)	15 13 (320)	15 13 (260)
	放牧日数	4.14~4.15 (2月)	4.26~4.28 (3日)	5.10~5.12 (3日)	5.25~5.27 (3日)	6.6~6.7 (3日)	6.21~6.22 (2日)	7.1~7.2 (2日)	7.13~7.14 (2日)	7.22~7.23 (2日)
	休牧日数	日	11	13	13	8	13	8	12	7
	放牧時間	5時間	5	24	24	24	24	24	24	24
	放牧頭数	55頭	55	51	51	51	51	41	41	41
48 年	放牧日の草高	オ 10cm ペ 7cm	13 10	12 10	13 10	15 11	10 8	8 6	8 5	9 8
	放牧日数	4.9~4.10 (2日)	4.18~4.19 (2日)	4.27~4.28 (2日)	5.5~5.7 (2日)	5.17~5.18 (2日)	5.26 (1日)	6.2 (1日)	6.9 (1日)	6.16 (1日)
	休牧日数	日	8	8	8	9	7	5	6	6
	放牧時間	3時間	4	5	5	5	5	24	24	24
	放牧頭数	53頭	53	53	42	42	42	52	52	52

(注) 1. 本調査は第2牛舎の第2牧区において行った。(面積1.8ha) 2. オはオーチャード, ペはペレニアルを示す。



前略、始めての手紙がこんなに遅くなり真に申し訳なく思っています。

早く出せば良いのでしたけれど……

ところで皆様その後お変わりありませんか。私の方は元気で毎日を通しています。短期実習は原先輩が一年前短期実習された所へ私も入り、リンゴとナシの収穫をしました。その農場の詳しいことは原先輩の手紙で良く知っておられると思いますので省かせてもらいます。でも、アメリカに着いて最初の労働としては真に苦しいのみでした。今から思えば、良く働いたな。〃という感じがします。二度と果樹の収穫をしたいとは思いません。

昨年の十二月二十八日から長期実習が始まっているのですが、この農場も全くとはいえないが居心地が良い方ではありません。二カ月過ぎ仕事には慣れたものの、朝は

やっぱり眠たいです。

さて、この農場の場所は、デンバーの近くでブライトンという町のはずれです。農場の名前は

Rock Brothers Farm という、三

人の Boss により経営されています。しかし、長男と三男が直接の経営にあたり二男は他の職を持っているため、時々しかこの農場のことをしません。経営内容は、ト

ウモロコシ畑二〇〇エーカー、アルファル畑四四〇エーカーで、その他の作物類は全くありません。

これらの作物はサイレージと乾草用で、青刈用は全くありません。

牛は、ホルスタイン種で搾乳牛一

二〇頭、子牛(未経産)一二〇頭、雄牛一〇頭、肉牛二五頭、馬四頭

を飼育しています。牛舎は、酪大の第二牧場と同じ方式で四頭(片側)、洗滌はボタン一つで全部自

動です。

仕事は今のところ搾乳と飼料給与と乾草運びです。搾乳は朝四時

前から始まり、終るのは夜八時頃

です。一回の搾乳時間が四時間位

だから一日八時間は搾乳室で立っている

ので寒く冷る時は何ともいえないです。

産牛の時だけ雄牛を使用し、搾乳

しだすと人工授精で行ないますが、発情があるたびに授精師がやって来ます。安い精子を利用して

いる故か、出来た子牛は全部母牛より劣っています。乳を出せば良

いというような考えだからかもしれません。(この地域全般に)

この農場に入っている研修生は三人で一人は先輩で今ネブラスカ

の方へ第三学科研修のため行って居ません。もう一人は野菜専攻

で、配属される前はこの農場が野菜も作っているとの事で来たので

のが、野菜は全く作っておらず、今のところ彼は、文句を言いな

らも良く働いています。やはり自分の専攻の方へ近い内変わるかも

しれません。現在彼と二人で交替で仕事をしています。(一人が搾

乳すれば一人は飼料給与)一日交替で昼交替です。Boss の方も同

じですが、一人の Boss が出てくるともう一人の Boss はその日は

全く出て来ません。

酪農専攻で二人共に農家に入る事と、自炊をしなければなら

ないのは、この私だけです。二人入ることはともかく、自炊をしなければならぬという事は、全く遺

憾なことですが、文句を言えば

Go back Japan となるのでしかたなしに生活しています。

休みは週一回、土曜又は日曜でこれも彼と交替で休んでいます。

休みの日は、平素眠たいと思っ

ているのに眠れなく、仕方なしに目を開けて寝ています。

ないからよけいにそのように感じ

るのかもしれませんが……仕事の方は楽しいです。日中 Boss 達

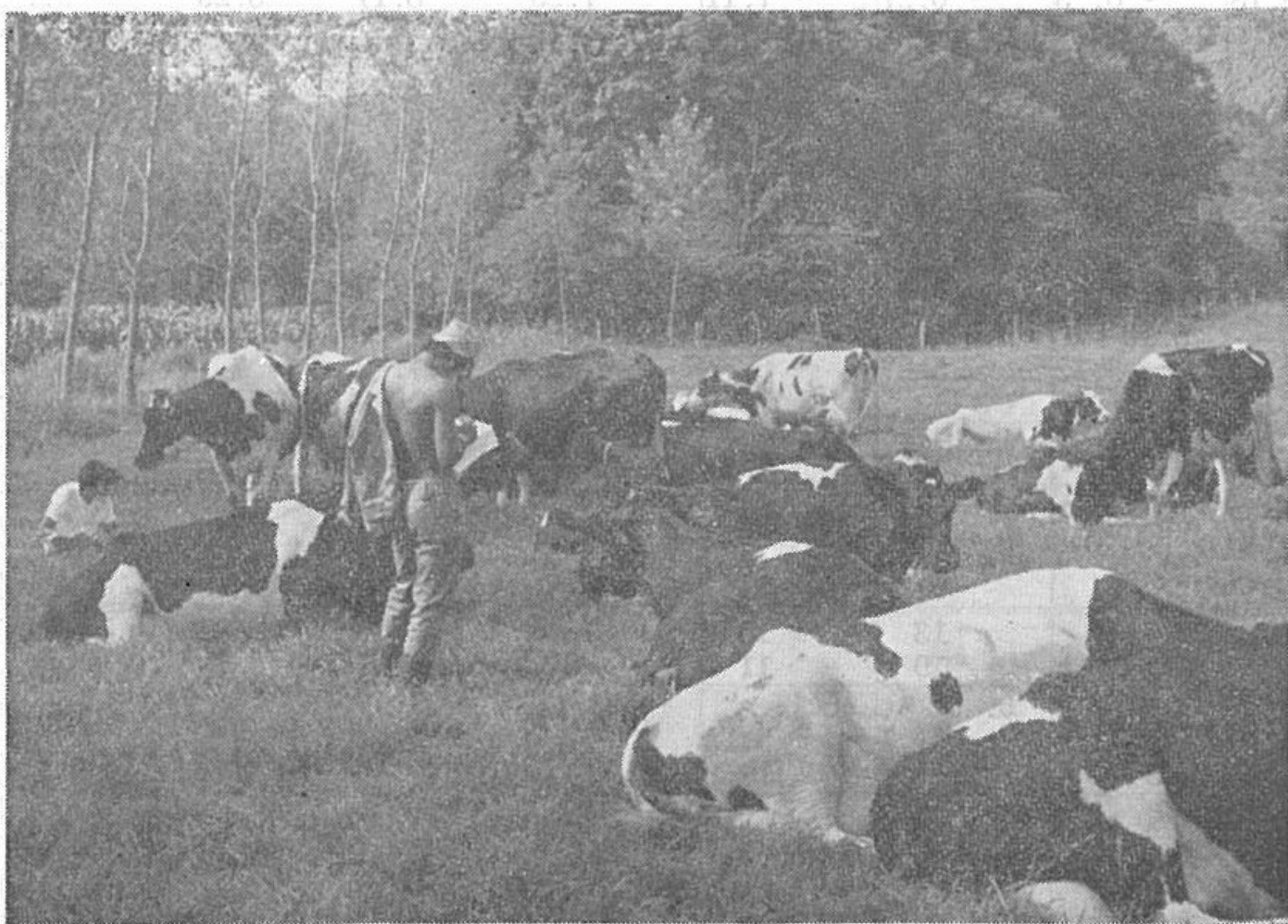
が出て来ないから自分達の思うように出来るので。

まとまりのない文になりましたがこの辺で失礼します。乱筆乱文

お許し下さい。

一九七四年三月一日

第七期生 井上和彦



乳牛動態調査 横臥姿勢光景



四月六日

第九期生の入学式が挙行された。入学生は三十三名(うち、女子三名)で、この日ばかりは緊張した顔で酪大生としての一步を踏み出した。

四月

今年二年続きの暖冬異変で、牧場の放牧開始は例年に比べ早く第一牧場は四月十日から、第二牧場は四月六日から開始した。

四月十九日

国際農友会のあっせんによる米国の酪農研修を終えて帰国した第六期生伊藤裕治が学生に帰朝報告した。一年の海外体験ですっかり人が変わったようにたくましくなっていた。

七月

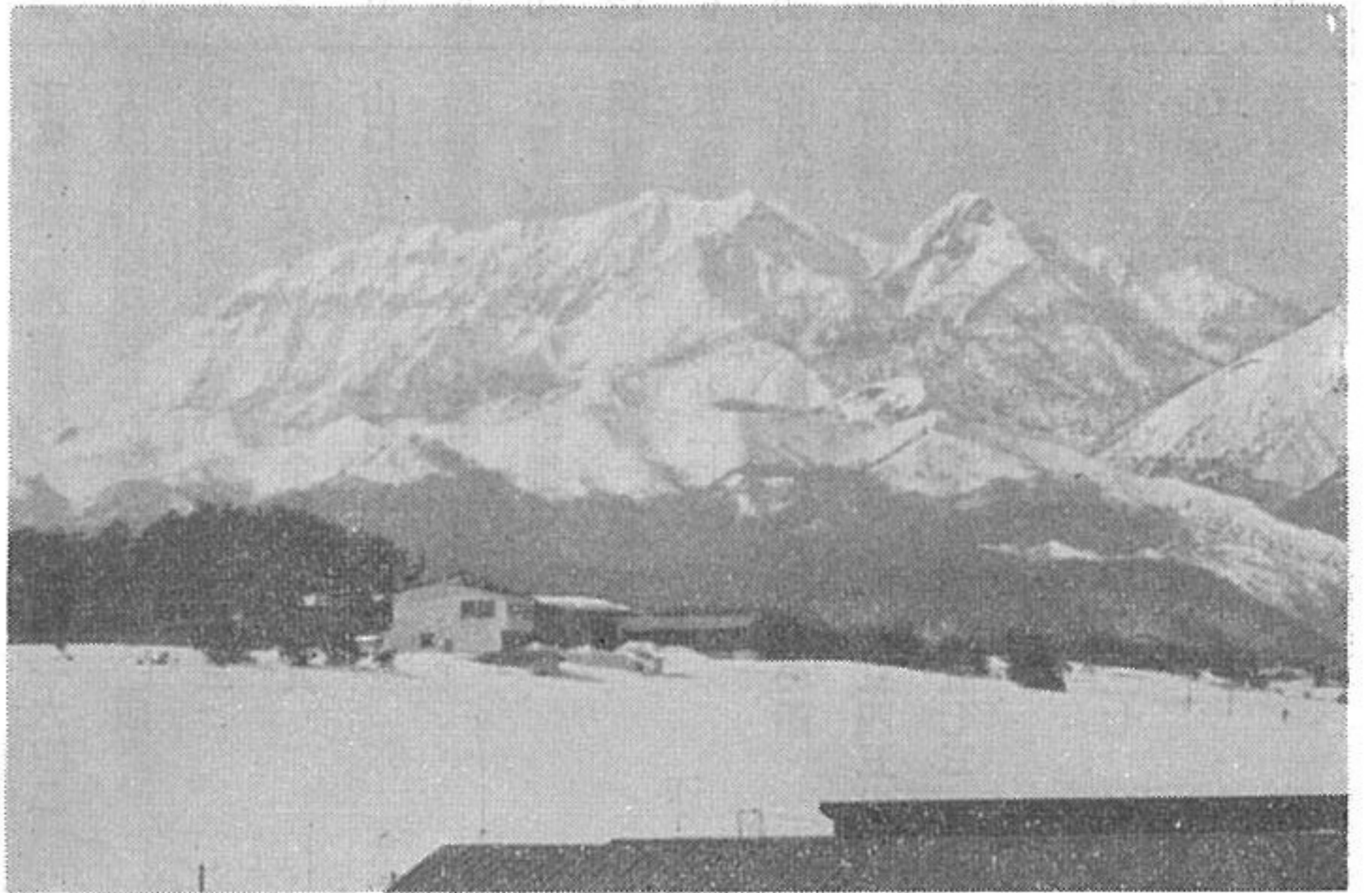
約二ヶ月間におよぶ異常渇水で、天然水を利用しての学校水道は、本校も第二牧場も断水し、水の確保に大変であった。

七月十五日

けん案となっていた第一牧場の牛舎改造が、いよいよ着手されることになった。

八月三日

農業施設学の鳥取大学尾崎先生



の指導で蒜山酪農協の協力を得て学生による蒜山地区の農家牛舎調査を実施した。初めてのころみであったが熱心な調査を行なっていった。

八月七・八日

乳牛の生態調査を例年の通り第一牧場と第二牧場に別れて実施した。毎年日中は大変暑い日であったが、夜は可成り冷え込み、夜明けと同時に動き出す牛群は見事なものであった。

八月九・十一日

第八期生の集合研修開催。農林省中国四国農政局生産流通部山田

部長の特別講演と実務研修の成果発表の後、八期生との交換ソフトボール大会を実施した。夜は三木ヶ原で盛大なキャンプファイヤーを実施青春の良き思い出になったことだろう。

九月四日

ジャージー共進会が本校の校庭で実施された。

九月二十一日

七月から着手していた第一牧場の牛舎がほぼ完成し牛が入舎した。

九月二十九日

第九期生は前期の学習を終り、実務研修に出発した。校内実務研修も二年目を迎え濃密指導の効果が期待される。

十月三日

第八期生の後期の学習が始った。一年間の実務研修で心身ともに遅しくなっている。

十一月二十八・二十九日

大型トラクターの免許試験を蒜山高校のグラウンドで実施し、受験者全員が合格した。時期的に遅く寒い風に吹かれての受験であった。

十二月二十五日



一日遅れのクリスマスパーティーを学生主催で本校講堂で開催した。学生の班別の演劇やかくし芸等で青春の意気を発散させた。

名(うち女子四名)の合格者が二月二十五日発表された。

三月二十八日

第八期生の卒業式が挙行され、三十四名の酪農経営士が生まれた。卒業記念品として第一、第二牧場の看板を寄贈された。

(教務課)

二月二十・二十一日

第十期生(昭和四十九年度)の入学試験が実施されたが、三十五

昭和48年度

第八期生

卒業証書授与者名簿

六月廿一日

十二月二十五日



乳牛動態調査

編集後記

○ 本年はまれにみる豪雪で毎日の除雪には閉口しました。

○ 異常産の発生が多く、乳量の減少と種付成績の低下で頭の痛い年でした。

○ 各地で同窓会が開催されましたが同窓会の活動にあわせて本だよりを同窓会報に発展させたいと思っていますので各地からのお便りをお寄せください。

